

高次脳機能障害

— 認知症との関係 —

なるほど!!
健康講座

問合せ 健康推進課 ☎@1610

動

物は、目や耳、鼻、口、手足などにある感覚器で身体の外の情報を収集しています。収集された情報は、記憶され、理解や判断に使われます。さらに処理された情報を基に手足や口に指示を伝えて身体を動かしたり声を出したりします。これらの働きは、情報を収集する「感覚知覚機能」、情報を集積し理解し判断して物事をやり遂げる「高次脳機能」、実際に身体を動かす「運動調節機能」に分けられます。高次

とは、自分では調節できない体温や心拍、くしゃみなどの自律神経や反射、本能など原始的な脳の機能に対して、高い能力をいいます。この高次脳機能がうまく働かなくなった状態を高次脳機能障害といえます。

人間は特に高次脳機能が発達しています。体験以外に他人から得た知識や情報も合わせて収集、応用します。人が情報をやりとりする手段として言語を用います。言語機能が低下した状態を失語症と言います。失語症も高次脳機能障

害の一つです。その他に、注意をどのように払ったら良いか分からなくなる注意障害は、関心を持つ範囲が狭まったり、興味や関心の程度が低下したりして起きます。他人からの説明を理解して判断することができない学習障害や、二つの物の共通点や相違点が分からない認知障害、二つのことを同時に行ったり、段取りがうまくできなかったりするため行動が遅れる、困難になる遂行機能障害、買ったことを忘れて同じものを何度も買って来てしまう、記憶障害など、その症状はさまざまです。

高次脳機能障害は、頭部外傷や低酸素脳症、脳血管障害などの後遺症として現れます。よく似た症状に認知症があります。認知症も高次脳機能障害も症状は似ていますが、認知症が進行性であるのに対し高次脳機能障害は、専門家の適切な対応（リハビリテーション）によって、進行を抑えることができます。また、症状を自覚することで対処できることもあるため専門家による支援が重要です。感覚知覚機能も運動調節機能も傷ついていない場合は、障がいが軽いと見過ごされる場合も少なくありません。受傷後、怒りっぽくなるなど性格が変わった、同じものを何回も購入するなど、何か気になるときは広島高次脳機能障害支援ネットワークに参加している医療機関に相談してみてください。



佐伯地区医師会
狭田 純 さん

〔広島県のホームページで「高次脳機能障害対策について」で検索〕